校長会会報

No.858　令和６年９月27日
発　行　岐阜県小中学校長会
岐阜市菅原町３丁目３番地
TEL（058）265－0338
FAX（058）263－8892
代表者　梅　村　高　志
印　刷　㈱杉江美術印刷

部　活　動

岐阜県教育委員会　教育長　**堀　　貴　雄**

毎年のように甲子園の話で失礼します。岐阜県の代表、岐阜城北高校の応援のため甲子園に行ってきましたが、昨年、この欄で話題にしたタイブレークの結果、智弁学園高校に惜しくも敗れました。県予選において強豪校を相手に試合のたびに力をつけてきたこのチームは甲子園でも同じでした。今年の岐阜城北の戦いぶりには「さわやかさ」を感じました。

８月23日には、夏の甲子園の決勝戦が行われ、京都国際高校と関東第一高校の対戦もタイブレークの接戦となりました。暑さ対策のため、朝10時から始まった試合のテレビ中継を昼休みに見ると、10回表に２点を入れた京都国際高校に対し、関東第一高校がそれを追う場面でした。私の勝手な評価ですが、関東第一の監督は、策を使って勝ちを求めるのではなく、真っ向から攻める野球でした。結果、１点は取るものの２対１で京都国際高校が優勝しました。

勝ったチーム、負けたチームの選手の目からあふれるそれぞれの思いからの涙を、テレビは映し出していました。

この試合でＮＨＫテレビ放送の解説をしていたのは、廣瀬寛氏です。岐阜高校から立教大学、その後トヨタ自動車で野球部の監督を務めた私の高校の同学年です。彼の解説はいつも選手の心情に寄りそう温かいものです。そのためか、長良川球場などで一緒にスタンドで観戦していると、声がかかるほどの人気がありました。

その彼のＮＨＫでの解説は、この日の決勝戦が最後でした。17年間で実に250回の解説をしたということでした。その最後の解説が甲子園100周年の年にあたる今年の決勝戦となったわけです。アナウンサーが労いの言葉を述べた後、彼はこう語りました。

「高校生は一投一打で計り知れない努力を重ねてきている。そうした高校生を後押しできる解説を心がけてきた。野球が大好きで甲子園を目指している球児たちはすごい努力をしている。見事に達成して甲子園に出てくる選手もいれば、一歩足らず、あるいは夢で終わってしまう球児もいる。でも、きっとその過程が大事であって、勝負の世界には勝ち負けがあるが、しかし、それを目指して努力したことには決して勝ち負けはない。これから頑張っていく選手の成長を楽しみにしていきたい。」と結びました。

これはすべての子供たちに対するエールであるとともに、私たち教育に携わる者に対するに大切な言葉だと受け止めたいと思います。

この夏、岐阜県で全国高等学校総合文化祭が開催されました。この大会はよく文化系部活動のインターハイと言われますが、実は吹奏楽や合唱などは順位を決めるものではなく、各県からそれぞれの理由で代表となった団体が発表をします。そして、演奏に対しては、専門家が講評をしますが、今年の合唱の講評者の一人は岐阜出身の雨森文也氏で、よくコンクールの審査員を務める彼は最後の講評で、順位をつけることなく一日合唱を楽しめたことを本当に喜んでおられました。同様のコメントを昨年も吹奏楽と合唱について専門家から聞きました。

中学校部活動の在り方が移行をしている現在、その仕組みだけでなく、運動系、文化系を問わず、指導の方向性についても改革する機会になればと思います。それは教員だけでなく、新たに子供たちの指導を担う人たちとともに。

創意と英知を結集して教育の充実・発展を

岐阜県小中学校長会　要望活動委員長　　山　田　茂　樹

１　はじめに

私たち要望活動委員会では、学校教育の管理・指導の充実につながる要望活動を効果的に進めるために、次の２点を重点として活動してきました。

⑴校長の創意に基づく学校教育課題の明確化

①校長会各委員会、地区校長会、各種団体等の意見集約に努めるとともに、課題の焦点化を図る。

②教育問題審議会等との連携を密にした要望の方向と内容の選定に努める。

③社会情勢を踏まえた喫緊の教育課題について、校長の創意の反映に努める。

⑵学校教育の充実を図るための効果的な要望活動の展開

①学校教育の基盤を担保するための効果的な要望活動を行う。

②岐阜県教育の積極的な推進を促すために県教育委員会に対する要望活動を行う。

２　各地区等から寄せられた声

今年度、各地区等から特に大きな声があがったこととしては次の４つに集約されました。

一つ目は「人手不足」に関するものです。定数については複数養護教諭の配置基準の引き下げや加配教職員定数の充実、不登校児童生徒への対応として「校内教育支援センター」で不登校児童生徒への支援にあたる学習指導員など、人的支援の拡充についてです。

二つ目は「不登校・いじめ・自殺予防に資する指導の充実」に関するものです。特に子供や保護者への定期的なカウンセリングはもとより、ケース会議や教職員への助言等を含めて、継続的に相談活動が進められるよう、スクールカウンセラーの派遣間隔を短くすること。また、岐阜市の小中学校では「ここタン」が導入され、子供の心に抱える問題にいち早く気付けるような試みがされており、一人一台端末等を活用した心の健康観察ができるようなシステムの整備についてです。

三つ目は「ICTを活用した教育」に関するものです。ICT支援員の配置や働き方改革にも関連してテスト作成・採点システム導入等の支援についてです。

四つ目に「働き方改革」に関するものです。教頭職の多忙化解消に向けて教頭マネジメント支援の配置について。また、近年、育児と仕事を両立しながら勤務できるような支援制度を活用する教職員が増えており、例えば男性の短期間の育休取得時の補充が難しいことや、部分休業に対する人的支援が無く他の教職員への負担が増えていることから、それらに対する非常勤講師の配置等についてです。

３　県教育委員会との意見交換会

こうした各地区等の声を書面にて県教育委員会へ提出するとともに、７月25日には、堀貴雄県教育長ならびに青木孝憲義務教育総括監をはじめ、県教育委員会各課の皆様と意見交換会を行いました。

ここでは「児童生徒及び教職員の安全・安心について」や「人的拡充」などが話題の中心となり、県教育委員会と校長会がお互いに意見を出し合うことで、双方の願いや困り感を共有し学び合うことができ、新たな施策等への反映が期待できました。また、各地区等からあげられた「人手不足」「不登校・いじめ・自殺予防に資する指導の充実」「ICTを活用した教育」「働き方改革」については、県教育委員会としての現状、検討事項、国への要望継続事項等をお伺いでき、校長会としてできることは何かを再確認できたところです。

４　おわりに

例えば、県教育委員会の事業である外部の専門家を学校に派遣できる「スペシャリストサポート事業」の執行率には余裕があることが分かりました。校長会としては、このような事業を各地区の校長会で広く周知し、活用していくことが大切と考えます。

今後も校長会として、先を見据えながら、今まで以上に連携を深め、創意と英知を結集して教育を充実・発展させ、魅力あふれる学校にしていくことが求められています。引き続き、本委員会での取組が継続・発展していきますよう、会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

令和６年度　中学校長会　生徒指導委員会の活動

誰一人取り残さない　どの子も幸せになるために

岐阜県中学校長会　生徒指導委員長　　寺　田　幸　広

１　はじめに

「おはよう」と毎日生徒を学級で迎えるA先生。いつもより遅れて登校してきた生徒や、いつもと様子が違うと感じた生徒に、「何かあった。」「今日は元気ないね。」と声をかけ、そこから一日が始まります。

若いころ、先輩の先生方から、生徒をみるの「みる」には、「見る」「観る」「視る」「診る」「看る」など多くの意味があると教えていただいたことを思い出します。タブレット端末を活用した健康観察や教育相談も大変有効な手立てですが、生徒一人一人をしっかりと「みる」ことを忘れてはいけません。それが、誰一人取り残さない学校づくりのスタートだと考えます。

２　不登校過去最多にどう対応するか

⑴不登校の要因を正しく分析する

昨年度、文部科学省が行った調査では、不登校になった要因について、当事者である児童生徒と保護者、教員で認識に大きなずれがあることがわかりました。特に、児童生徒が「いじめ被害」、「教職員への反抗・反発」、「教職員からの叱責」と回答した割合は教員の数倍ありました。

これまで学校は、不登校の要因の多くは、「無気力、不安」ととらえてきました。しかし、実際には、様々な要因が複雑にからみ合っています。事実をもとに、生徒や保護者と関わっている複数の教職員で考えることが大切です。

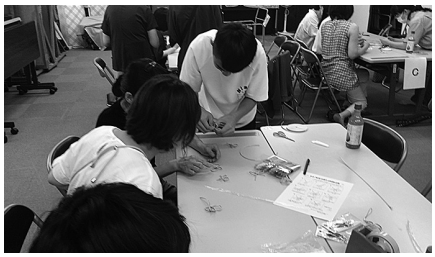
⑵学びや支援にアクセスできない子を０にする

現在、校内教育支援センターの設置が進んでいます。私の勤務校では、落ち着いて学習できる個室ブースと仲間と関われる共有スペースのある教室に加え、相談員が常駐して自分のやりたいことができる「学校らしくない空間」の教室を整備し、多くの生徒が利用しています。

学校に入れない生徒は、自宅でのオンライン学習や、不登校特例校のサポート事業、市の設置する「学校外教育支援センター」を利用しています。

しかし、自宅にひきこもっている生徒もいます。その中には、「小学生の頃からずっと学校には行っていないから、今さら無理。」と言う子もいます。民間のフリースクールも増えてきました。「学校に登校する」ことだけを目標にせず、様々な場所を活用し、生徒が自ら主体性をもって進路に向き合い、自立できるよう、学びを支援する必要があります。

⑶地域と連携・協力できる活動を推進する



総合的な学習の時間やコミュニティ・スクールの活動を通して、地域の多くの方と関わる機会があります。その関わりの中で、生徒たちは、学校や家庭だけでなく、地域の方々にも大切にされていると実感することができます。また、地域の方から認め、励ましてもらうことで、自己肯定感が高まります。

これは、生徒指導的な側面だけでなく、近所付き合いの希薄化、地域活動の縮小など、地域コミュニティ衰退の問題解決にもつながると考えます。

３　おわりに

⑴校内教育支援センターの設置

「生徒指導提要」には、「生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。」と記載してあります。

誰一人取り残さない。どの子も中学生としての幸せはもちろん、生涯にわたって幸せに生きていくための生徒指導でありたいと思います。

教育実践シリーズ

関わり合う力

飛騨市立山之村小学校・山之村中学校長　深山　学

1　はじめに

第４次岐阜県教育振興基本計画の中には、重要施策の一つに『多様な人とつながり、関わる力の向上と心の教育の充実』があげられています。

本校は、へき地複式校であり、小学生８名、中学生４名の小中併設校です。また、小学２年生以下の子供が地域に一人もいないことから、数年後には閉校する可能性があります。

この地域に暮らし、やがて進学や就職等で社会に出ていく子供たちにとって、互いに伝え合ったり、話し合ったりする関わり合う力の育成は大変重要であると考えています。

2　今年度の新たな取り組み

⑴みんながリーダープロジェクト

子供たち一人一人がリーダーとなって活躍できる場を、二つの願いから新たに創設。

一つ目の願いは、子供たち自身に『自分の良さを実感してほしい』ということ。

「あなたの良さは？」と聞かれても、なかなか答えられない子供たちが、仲間や地域のために、自分の良さや得意を発揮しながら貢献することで、自己肯定感や自己有用感を高めていきたいと考えました。二つ目の願いは、子供たち全員に『リーダーの経験をしてほしい』ということ。

小学２年生以下の子供がいないということは、現在の小学３年生などは、リーダーの経験をしないまま義務教育を終えてしまうかもしれません。

呼びかけに仲間が応えてくれない悔しさを味わったり、どうしたら伝わるのかと悩みながら関わったりするリーダー経験によって、色々な立場から考えたり、相手への関わり方を工夫したりできるようになることを願っているのです。

現在、あいさつが自慢の小学３年男児は『あいさつリーダー』として上級生に働きかけるなど、全員が、それぞれの良さや得意で全校をリード。また、地域に出かけて貢献しているリーダーもいます。

⑵ つながりプロジェクト

ふるさと学習等で、子供たちと関わっていただける地域の方は限られています。そこで、全校児童生徒と地域の方でグループを作り、１年間同じメンバーで交流。地域の一員としての思いを高めたり、郷土愛を育んだりすることを目指すことにしました。

子供たちが全家庭を訪問し、メッセージを添えて手作りした『パートナーカード』をお渡しすることからスタート。その後、運動会を控えたグラウンドの草取りを一緒に行った後、ゲームをしながら楽しい一時を過ごすなど、つながりプロジェクトのグループを様々な場面で活用することにしました。

地域の方々は、子供たちの顔と名前を覚え、気軽に声をかけてくださるようになりました。子供たちも、全く知らなかった方々との顔の見える関係に親近感を抱き、自ら関わる姿が増えてきました。

⑶山っこプロジェクト

本校では、地域の魅力を発見する小学生、その魅力を発信する中学生、それぞれが様々な人と出会い、関わり合いながらふるさと学習を展開しています。

特に「学校を残したい」といった子供たちの強い願いから生まれた『山っこプロジェクト』は、移住者を増やすことを目指しています。

今年度は、移住コンシュルジュ、東京・名古屋の岐阜県移住相談員、実際に移住された方に協力を依頼。どうしたら魅力を伝えられるのか、移住を検討している方は何を求めているのか等、様々な視点で子供たちと関わってくださっています。

８月には、名古屋市のオアシス21にある「GIFTS PREMIUM」（岐阜県の移住相談窓口や、岐阜県の特産品を販売）に全校児童生徒が出かけました。

中学生は、自作した移住パンフレットや魅力紹介動画について相談員の方からアドバイスをいただき、小学生は来場者を呼び止め、山之村の特産品を紹介したり、インタビューしたりしました。

3　おわりに

小さなコミュニティで生活する子供たちにとって、いろいろな人と出会い、関わり合う場は貴重です。その成果が、様々な場面で自ら積極的に関わる姿となって表れてきました。今後も、関わり合う力を重点に本校独自の教育活動を展開していきます。

※上記の取組の一端が、『24時間テレビ』で紹介されました。

教育長さんこんにちは！

郷土の偉人を語り継ぐ

白川町教育長　鈴　村　雅　史

私は小学生のころ、学校図書館にある偉人の伝記をよく読みました。発明家トーマス・エジソン、雷が電気であることの実験をしたベンジャミン・フランクリン、飛行機を開発したライト兄弟など、さし絵を見ながら自分もやってみたいと思ったものです。戦国時代の武将では、農民の子として生まれながらも天下統一を果たした豊臣秀吉に憧れました。

それを引きずっていたのか、40代半ばから勤務地での郷土の偉人に興味をもち始め、これを調べ、子供たちに紹介しながら、ふるさと教育、道徳教育の一環としてきました。

●　杉原千畝を知る

八百津町の偉人に元外交官杉原千畝がいます。私は昭和51年に新任教員として八百津町立潮南中学校に赴任しました。そのころ杉原千畝の話は全く出ていませんでした。ところが平成９年、八百津小学校教頭として再び八百津町にお世話になった時には「人道の丘公園」が整備され、杉原千畝という名前はもちろん、約6000人を救った「命のビザ」などの言葉が聞かれました。しかし、千畝が八百津小学校に在籍した記録はありません。また、日本政府が正式に千畝の功績を認めたのは平成12年です。そして同年に杉原千畝記念館が開設されました。私はもやもやしたものを解決するために白川町から記念館を見学に行き、資料を読みまくりました。

●　美濃加茂市伊深町の偉人と子供たち

平成16年から美濃加茂市立伊深小学校長になりました。校歌に「無相大師ゆかりの地」とあります。無相大師とは何かと思ったら、伊深の正眼寺を開山した関山慧玄のことで、子供たちは親しみ深く「エゲンさん」と呼んでいました。伊深小は明治６年正眼寺境内の見桃庵を仮校舎として「秀文義校」という名で開校したのです。

子供たちが関山慧玄のことや伊深小の歴史を知っていることに驚くと共に、私が預かっているのは子供や教職員、施設、文書、教育計画はもちろん、この学校の歴史と伝統・文化、保護者や地域の期待といった目に見えないものもあるのだと気付きました。大切にすると共に、私自身が校区のことを知り、子供たちに伝えていかなければと強く思いました。

校長室には雀の絵が飾ってあり、その雀は楽しく遊んでいるようだが近づくと飛び立っていくような絵でした。それを描いた人は伊深出身の画家大矢峻嶺です。自然豊かな伊深で生まれ育ち、どうしても画家になりたくて京都の著名な先生に習いに行った大矢峻嶺の生き方について、ペープサートを使って子供たちに紹介しました。

●　白川町の偉人

平成19年からは黒川中、24年からは白川中で勤めましたが、偉人の紹介にはかなり磨きがかかってきました。白川町出身の藤井丙午（新日本製鐵副社長、名誉町民）、田口俊平（測量術、砲術、蘭学者）、今井誉次郎（児童文学作家、国語教育者）など、新年を迎えた３学期の始業式に話しました。しかし、内容が増えると式が長くなるため１単位時間をもらって全校道徳のようにしました。

また、冒頭の杉原千畝については伊深小、黒川中、白川中で人権週間の時に紹介してきました。その際、八百津町の資料「決断」を使って職員との朗読も取り入れました。

振り返ってみると、郷土の偉人について誰よりも調べ、誰よりも楽しんで紹介していたのは私自身でした。子供たちが生まれ育った所には「どんな偉人がいたのか」「何がその人を強く動かしたのか」など、その生き方を紹介し、子供たちがより郷土を好きになり、生きる力としてほしかったからです。

先輩の教育長から、「校長の話は研究授業！」と教えられ、どうしたら子供たちが興味をもって聞いてくれるか、いろいろ工夫してきましたが、総合的な学習や自由研究のテーマとして子供自身が探求すると更によいのかもしれません。その取組は後輩にお願いすることにします。

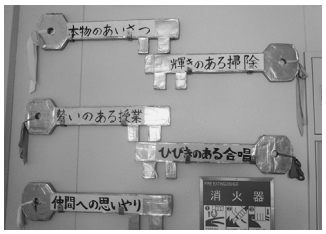
東西南北

大切に守る「五つの伝統の鍵」

大垣市立興文小学校長　上野　寛子

本校は大垣城の西に位置し、創立184年目を迎える藩校由来の小学校です。「興文偃武（こうぶんえんぶ）」という校訓は、「生涯にわたり人格を磨き、学び続けることを大切にするように」という教えですが、令和の子供たちは「伝統の５つの鍵」を宝物として、大切に引き継いでいます。

令和６年度の学校経営の重点「自他のよさを見つけ、伝え合うことができる子」「仲間のために働くことができる子」を育成するために、子供たちが全校に向けて発信する自治的な活動を大切にしています。子供たちは、児童会スローガン「仲間と共に磨き上げよう五つの伝統」に願いを込め、「伝統の５つの鍵」の姿が高まる活動を年間を通して企画し、実施しています。



鍵の一つである「仲間への思いやり」を担当する計画委員会では、「よさ見つけキャンペーン」や「グッドポイント交流会」等を行い、人権尊重の気風が薫る学校づくりに取り組んでいます。

５月の児童朝会では、計画委員が「よさ見つけマスター」となり、「してもらったうれしかったこと」「友達の姿ですごいと思ったこと」を素直に紹介することの大切さを語ってくれました。子供発信による活動は、下級生からの憧れや自主性を導きます。

学級や学年で行う「グッドポイント交流会」では、６年生の計画委員がファシリテーターとなり、交流会を運営します。1学期は「私が知っている私のグッドポイント」として自己を見つめ、自分をほめてあげる時間、「グループの友達のグッドポイント」を伝え合う時間を工夫しました。友達から伝えてもらう「私のよさ」は何よりもうれしいものです。子供たちは、友達からの温かい言葉に励まされ、そしてこれからの自分自身の目標につなげ、交流会を終えました。

「五つの伝統の鍵」を継承しながら、子供たちと共に愛情と誇りを感じる令和の学校づくりに励んでいきます。

富士見台研修

中津川市立神坂中学校長　　吉田　知己

本校は、中津川市の南東に位置する全校生徒31名の過小規模校です。神坂の南端には標高2,191ｍの恵那山が、東には標高1,729ｍの富士見台があります。校区には神坂地区、馬籠地区があり、分村合併などの歴史があります。平成17年には旧長野県山口村に編入されていた馬籠地区が越県合併により岐阜県中津川市となり現在に至ります。同じ敷地内にある神坂小学校とは校舎が廊下でつながっています。さらに同じ敷地内に神坂幼稚園も併設されていましたが、昨年度末に閉園となりました。本校も令和７年度末に閉校する予定です。

昭和30年８月の夏休みに、学校行事として富士見台でのキャンプを行っていたところ、突然の雷雨に見舞われ、落雷により４名の生徒がその尊い命を失いました。富士見台には「落雷遭難の碑」が建てられ、それ以来、毎年５月に恒例の行事として慰霊登山を行っています。

今年も全校生徒で慰霊登山をふくむ富士見台研修を実施しました。学級の仲間は小学校からずっと同じメンバーですが、学級の仲間と声をかけ合って、標高差約600ｍの登山に挑みます。また富士見台にはササユリが自生し、その保全のため前年度に収穫した種子の散布も行います。さらに道中には学校の教育目標「大樹」のモデルとなる推定樹齢1000年とも言われる「神坂大檜（おおひ）」があり、生徒一人一人が今年の決意・目標を大檜に叫びます。

新入生にとっては初めての行事なので、経験のある生徒会の生徒を中心に研修のねらいや約束を確認し、先輩から後輩にその意味を語り継ぐことで、神坂中学校の生徒にとっては意義のある一日となっています。

中学生としての生活は３年間しかありませんが、この３年をただ通り過ぎるのではなく、今は亡き先輩の遺志に思いを馳せ、確かな志をもって中学校時代を充実させてほしいと願っています。

地区校長会｜シリーズ｜

強さ引き出すR６

多治見市校長会

1　はじめに

多治見市校長会は、小13校・中８校で組織されており、小規模校から大規模校まである。地域性や歴史等、学校事情の違いは多いが、それぞれの強みを発揮し合えるよう、連携を図っている。

多治見市
マスコットキャラクター
「うながっぱ」

2　重点

⑴自ら学ぶ校長会

年６回の校長研修会・各校実践交流、年４校の授業公開を含む研修や地域ブロックに分けた研修、夏の研修視察、中学校区懇談会等

⑵人材育成

・学校内の人材育成と実践交流
・多治見市校長会としての人材育成（時期管理職を育てる特別研修会等）
・市内研究発表会参加と指導等のバックアップ

3　取組

⑴行事の検討と校長会のリーダーシップ

「持続可能か」を話題にしながら、精選・改革を進めてきた。しかし、何もかもなくしてしまっては、子供たちの強さを引き出すことはできないと考える。多治見市では目指す子供像を『お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子』とし「挑戦」という言葉を新たに盛り込んだ。校長会としても様々な場面で話題にしている。

例えば小中音楽会。比較するのではなく学び合う会であることを校長が理解し、教職員・子供たちに指導し、他校の演奏を録画したり、ケーブルテレビで放映しないようにしている。自校の演奏のみを後日、保護者に視聴してもらっている。

⑵喫緊の課題「不登校」について考える研修

夏の研修では喫緊の課題を取り上げ、研修視察を通して学んでいる。今年は西濃学園に受け入れていただき、「自立」について考える絶好の機会をいただいた。先生方のお話を聞き、夢をもち、学校経営することの楽しさを肌で感じさせていただき、校長のリーダーシップをどう発揮していくか、たくさんのアイデアをいただいた。

今後も、「どんな力をつけたいか」を話題の中心とし、校長同士・市教委と連携し、校長の指導性を発揮していきたい。

校長室の窓

小さな手

各務原市立尾崎小学校長　西 野　美 佳

「先生にとって、今日が幸せな一日でありますように。」

小学３年生の子供が、自分の小さな両手で私の手のひらを挟み、優しくささやくような声で私に言った。

３月、まだ肌寒く感じる日の朝、特別支援学級の子供たちは公共のバスを利用して、市内の遊具施設に出かけた。私は校外学習に出かける子供たちを見送りに、外へ出た。

そして、この言葉を聞いた。

私も、近くでこの様子を見ていた職員も、あまりの衝撃に初めは言葉が出ず、呆然としてしまった。

自分はこれから楽しく遊べる遊具施設に出かける。校長先生は一緒に行けないけど、先生にとって今日が楽しい一日になるといいね。そういう思いで、私に声をかけてくれたのだろうか。

私の幸せを願う言葉を語りながら、柔らかな手で私の手を温めてくれた時、あらためて子供の清らかな心と、その心から発せられる言葉に心動かされた。

見る、聴く、触る、味わう、自分を見つめる、他人を見つめる。

そういう営みを大切にしながら、これからも子供たちの感受性が磨かれるよう手助けをしたい。そして、その感受性から発せられる話、言葉、子供の声を聴いていきたい。

【木の実に、草花を飾ってみたよ！】

校長講話シリーズ

みんなちがって　みんないい

郡上市立牛道小学校長　猪又　千穂

みなさんが大切に育てているミニひまわりの花が咲きました。花をよく見るとミニひまわりなのに背が高いひまわりや小さくてかわいいひまわりなど、一つ一つの花に違いがあります。

ある学年で古典を覚えるテストを行っていました。合格した三人の子にどのように勉強をしたのかを聞いてみました。これから話す三人の取り組み方についてみなさんはどのように思いますか。一人目は、お家の人に何回も聞いてもらいながら練習をしました。二人目は、友達に10回聞いてもらいました。三人目は、一人で10分間集中して音読し続けました。同じように合格をした三人ですが、合格するまでの道のりは違いました。私は三人それぞれがすばらしいと思いました。目標に向かって取り組むときに大切なことは、「あきらめないこと」です。あきらめたらそこで終わりです。そして、「自分はできると信じて挑戦し続けること」です。

さて、明日からは夏休みです。仲間のよさを見つけることができる牛道小のみなさん、「自分は必ずできる」と信じ、自分のいいところをたくさん見つける夏休みにしてください。そして、夏休み明けに笑顔で会いましょう。

【講話のねらい】人と比べて「自分はできない」、「できない自分が嫌い」と思わず、「一人一人は違うこと」「違うからこそ自分はすばらしい」という気持ちをもち、充実した夏休みを過ごしてほしいという願いから話しました。

「第１回学校運営協議会」にて

笠松町立笠松中学校長　河合　善夫

学校運営協議会は「学校の課題を地域の方と一緒に解決していく面」と「地域の課題を学校も一緒になって解決していく面」の両面の機能があります。お互いにWinWinの関係を目指したいと思います。

「ふるさと教育の充実」は第４次岐阜県教育振興基本計画でも重点施策として挙げられています。本校においても、ふるさと笠松に愛着と誇りをもち、この町の将来を担う「地域社会人」を育てることは大事な学校経営のです。

そのためには仮想体験でなく、地域での現実体験が必要です。「五感に響く感動体験」が地域に愛着を生み、そこから疑問や問題点が生まれ、それらを探求していく子供たちが育つと考えます。

そこで、今日お集りの学校運営協議会の皆さんに是非ともお力をお借りしたい。なぜなら皆さんは地域のことを一番熟知し、笠松町のリーダー的存在であるからです。歴史・文化・自然などについて様々な意見や情報を共有するだけでなく、人的資源の活用も考えたいのです。こうやって学校と地域が手を取り合って共に「笠松の子」を育てていきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

【講話のねらい】
- 学校と地域社会が手を取り合って、地域の子を育んでいく基本理念の共有
- 地域に開かれた学校を目指し
  互いにWinWinの関係を構築していく

事務局だより

◆会議案内（10月・11月分）

小中学校長会

月日	曜	時	会議名
10.3	木	9：10	役員会⑬ 企画部会⑥
11.6	水	9：10	役員会⑭ 企画部会⑦

小学校長会

月日	曜	時	会議名
10.7	月	10：00	分科会推進委員会
10	木	10：30	全連小対策・調研(大阪市)
17	木	12：30	東陸連小愛知大会(名古屋市)
18	金	9：30	〃　(常滑市)
23	水	13：45	全連小理事会
24	木	9：30	全連小徳島大会
25	金	9：30	(徳島市)
11.7	木	15：00	研究総会飛騨大会準備委員会
8	金	10：00	研究総会飛騨地区大会(高山市)
22	金	9：30	役員会⑧
28	木	14：00	東陸連小事務局会
29	金	9：00	(南知多町)

中学校長会

月日	曜	時	会議名
10.7	月	10：00	企画委員会⑥
16	水	14：00	全日中理事会(盛岡市)
17	木	9：00	全日中岩手大会
18	金	9：00	〃
25	金	9：45	東海三県修学旅行委員会② (名古屋市)
11.7	木	10：00	理事会②
14	木	13：00	研究総会岐阜大会準備委員会
15	金	9：30	研究総会岐阜地区大会 (各務原市)
未定			県教委との懇談会
25	月	10：00	企画委員会⑦

㈱各会とも8月末段階での予定を掲載してあります。今後は、事務局からの案内によってください。

編集後記

１人１台のタブレットを使っての学習が可能となり、学習のどの場面でタブレットが使えるかの模索が続いています。一方で、「主体的に学びに向かっている姿」を育むには、自ら選択し追究する粘り強さや仲間と関り伝え合うことが重要になってくると思われます。タブレットをあえて使わずに学習することも含め、授業の在り方や主体性を育てることについて見つめ直す時期に来ているように感じます。（T）